

三銀行
身身廿廿六
始未手扣



114
A1167

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

八月八日午後二時三十分は阜平十二回立銀行
 査査スヘキ旨通シタルに既取渡金甚去
 心起業公債証券ヲ携ヘ稅課之債証券交換ノ為
 出京セシ廉ニテ支那人上松武次中出テ仰フ蓋シ
 日銀力ハ曩キニ遠藤亦止出張査査セシヨリ本
 日、端ウナルツルテ對般ノ事務暫ク頓シ容易
 調査了ルヘキモノト漫然思想シ換査ノ取掛リ
 タル此上京岡ランヤ種々不都合助者實シ支那人
 一人ニテ之ヲ掩フニ宜アラヌ故、換査ノ手筈ニ初
 ノ見込ト齟齬シ凡九時間余ノ時間ヲ費スニ至リ
 夫ツ第一ニ金銀者高ニテ壹萬五千ハる内ノ不足マ
 身其不足セシ所以ヲ詰問セシ、不特止事あり
 テ一時株主、貸付セシト云フ然ラハ平貸付証券



事ハ差出スヘキ者ヲ年セシメ一月ノ事ユヘ別ニ証書
 ハ取置キス又帳面上貸付金ノ部、モ登記セサル
 者ヲ答フ之ニ拠リテ考ルニ最初資本増額ノ為ノ各
 株主ヨリ入金セシト云フハ全ク名ノミニシテ恐ラクハ
 其實入金セサルモノト思フハ第一ハ増株ノ全中
 貸付金ノ預金貸越ノ二口、振替タルモノ云ハ六
 千九百圓年ナリ今之ニ前項ノ金一萬五千八百圓ヲ加
 フレハ四万二千七百圓年、シテ實に入金セシ金額ハ
 僅カニ七千二百圓ニ過キス加之準備金ニ於テ多
 分ノ不足ヲ生ヌ又仕訳表ノ如シ
 一四万圓
 茲行紙幣流通高
 口ニ割五分必要準備高
 七千五百圓
 紙幣準備トナヘキ紙銀高

五百六於云四七於四九
 一七万圓
 原通紙幣準備高
 五百六於云四七於四九
 内
 九千四百ニ於七圓於五身是リ
 紙幣準備不足高
 一七万圓
 準備ラ要スル諸預金
 口ニ割五分必要準備高
 五千六百ハ於七圓
 内
 七於三圓
 準備トナヘキ紙銀高
 五千六百於四圓
 預リ金準備不足高

右ノ通ニシテ其二口ヲ合計スルハ準備不足高き一
五千五拾五圓ニ於五才走リノ巨額ナリ然レモ
於テ買入レタル起書公債証券ノ高ニ實價九一
四ニシテ其資本ニ比フレハ格外多量ノ立シ方ト云
ワルラ得ス早竟如斯過分ノ事ヲナスヨリシテ處
準備ノ不足シ半シタルモト思ハル要スルニ當時既取
丈成人ノ於テハ起書公債証券ヲ以テ上納セシ積
公債証券ヲ引出シ之ヲ賣却シテ其不足ヲ補ヒ
置カントナリナレハ

右ノ始末ナルニ身我々ハ其部右ノ事件々々嚴重シ
準備ノ不足ハ連カニ積立ヘキ者ニ命令シ置キタレバ
臨ノ情況頗ル顧慮スル所ナレバ外山借借券シテ
大阪出張ノ路次西ニ検査ニシメタレハ

甲子ノ通リ申事ナリ且放膽實、可意且又書中
ノ弊ヲ考フハ、控急甚キ事ノ為ニ此等告知
ニシテ決シテ輕忽租滿ニ出ラタムモノトハ言セラレヌ
所為實々悪ヘキナリ其後十月^{十日}初旬^{十日}迄
急甚キ事出京私宅ニ事々、検査ノ際不都合アリ
レ件々ヲ謝シ且清ワテ白リ今般存存、不都合ハ
全ク私一人、必得遠ヨリ起リタル故ニ其他ノ者ノ
曾テ知ラオト此ノ者一之ヲ考メ鎖店ノ案
ヲ案リ或ハ増株本ノ許可無シハ其各株主ニ
シテ面目ヲ失スルニナラス、新力ノ名譽ニモ關係
シ實ニ身ヲ置クノ地モ無シ場々私ニ於テハ今ヨリ
既取ノ職ヲ辞シ以テ罪ヲ謝スルニ於テ、假ノ仰也
ハ私一人、止ソラレ、新力ニ罪ノ存バカハ、株取計

吳亦方々懇請ス然レモ其罪ヲ輕フセシトシケ斯クハ認メシナル
最初ノ失敗ニ懲リス再探査ノ節モ準備金ノ
不足ヲ生シシモ不都合ニ至ル由存コルモノハ早急
政海ノ條例法律ヲ重セサルノ意ハ其ノ最早
批者ニ於テ保護スヘキノ道ナレ連ニ周元ニ既リ
何分ノ命アルヲ待ツヘント言放セシニ甚キ者莫ク
及膽ノ様子河泣聲ヲ右ニテ去ル其翌日
至リ大藏卿ヲ宛テ自分一人ノ名前ヲ認メタル
願書ヲ携ヘ奉リテ余ニ内覽ツルニ取リテ之レヲ
見ルニ前段余ニ謝スル意ハ外ナラス然レモ其礼ス
所ノ唯再探査ノ際若急セシ不都合ノミツ掲ケ
最初我々カ探査セシ片ノ事ヲ載セテ蓋シ甚キ
ノ意ハ大藏卿ニハ及不都合再存コルヒシヲ掩

隠シテモ其罪ヲ輕フセシトシケ斯クハ認メシナル
ヘシ又々以探査西甚キ一人ノ名前ヲ以テセシハ
最初ノ探査ハ自分留守中ノ事ニラ関知セサル
モノ、如キ仗ヲ請フテス、余亦意ハ出ラタルモノト思ハ
故ニ余ハ之ヲ卻ケ何故ニ後ノ不都合ノミツ掲ケテ
前ノ失休ヲ掲ケカンヤ又々其配人ハ專ラ局、當ルノ
行滯方ナレ、何故ニ是下ノ名前ノミニテモ其礼人ノ
姓名ヲ載セカトヤ以上若シ大藏卿ニ懇願書ヲ
提出カントナラハ既取テ派入ノ連名ヲ以テ前後ノ
事柄ヲ包カス具状シテ其罪ヲ謝スルコトヲモ
ナラン然レモ懇願スルモノモ決シテ拙者ノ指揮
スルコトハ非ス連ニ既周シテ其礼人ノ事ト相付テ自カラ
考ス所アレヨト示諭シテ去ラレモ又レヨリ甚キ者

ハ間モ十ノ飯用セリ其後縣令ヨリ別紙乙作ノ
通申越スト至ル共方一也ノ考ヒテハ何トモ取計
方無シコト直々ト大藏下、具申アリタキ者ヲ
回籍ス然ルモ、尚本府ニ至リ頭取土部人連又
ニテ別紙丙下ノ願書ヲ差出セリ然レモ大藏
卿以御上ノ親シク其情況ヲ
具申シ此ノ後、徐カシカスルハラントス

八月十六日大阪三十二國立銀行ニ臨ミ検査、取掛ル此時
平瀬實之助ハ出京中ニ取締役白木保三主任ヨリ我々同
人ニ向ヒ直々ニ調査ヲ取カシ、金銀並ニ諸帖簿等ヲ排列
スヘリ且昨日ノ差引残高表ヲ差出スヘト命セシニ同人頗
周章ノ体ニテ恐入タルヲニテハ假ヘトモ實ハ当七月中ヨリ各店ノ帖面
方ヲ株式取引取一遣ハシ其時ヨリ諸帖簿ノ記入ヲ止メ其供
等用ニ付過タルニ付今日ノ検査ニ受ケ難シ何トリ帖簿整理ノ
為メ明日ニテノ於テ豫メタキ旨ヲ述フルニ付如何ナル帖面ニテモ
金銀ノ出納ヲ記載セシモノハナキヤト問フ此時支那人日本風ノ
帖面ヲ持チ来リ之ヲモテカラスヤト云フ右ヲ一見スル、其記入ノ
法錯雜混淆甚正否ヲ知ル、由ナシ然レモ先ツ此帖面ニ就
キ金銀有高ヲ調査セシニ石都合ナカウモ多少ノ時間ヲ費セシ

上ニテ突合セ整フタリ然レ其前ノ如ク帖面ノ記入ナキヲ以テ全体
ノ營業上ヲ検査スル能ハス依テ明日ヨリ戸次長ヨリ出張セシムル
ニ付同人ニ謀リ前日ヨリノ勘定ニ溯リ諸帖簿トモ精理スヘキ旨
ヲ申付ケ帰寓ス稍ク十九日ニ至リ粗繕ニ就キタル聲申出ヅ依テ
逐次検査セシニ表面ニ於テハ差シタル不都合ナレト雖疑ハレキハ貸
付金及当坐預金貸越ナリ右二口ニテ株主ニ貸出セシ合(無抵当)
合計指差万九千九百六拾九圓三拾壹錢五厘ニシテ今般ノ増株
高拾七万円ニ割合スルトキハ六割ニ分弱ニ当ル之ニ據リテ考フルニ
増株金ノ強半ハ只々名ノミニシテ真ニ入金セシモノトハ万々信ヤラズ
又帖簿ノ記入モ前般ノ如キ始末ニテ之ヲ調整スルニ三日間ノ日
子ヲ費ヤスヲ以テ其相如何ナル取繕アズモ知ルヘカラス殊ニ平瀬魚
之助白本保三ノ多ニ付テハ世間種々ノ風聞モ之アルニ付篤ト空山
偵ヲ遂ケタキトコロ長壽岡山等ノ検査アルヲ以テ數日ヲ費ヤス能

ハス不得已思フトコロヲ果サスシテ岡山長壽ニ出資シ各地ノ核
査ヲ了リ再ニ神戸ノ度リ直キニ西京大津ニ至リ同取銀行ヲ
検査レ九月十五日再ニ大阪ニ入り前般取遺ニタル第十三銀行亦
一銀行支店等ノ景況ヲ一觀シ同月十七日郵便汽船出資
ニ付神戸ニ向ケ出資セシトスル際河鱈権少書記官来リテ五代支
厚子ノ言ヲ致ス(別紙甲号ニ載スルヲ以テ茲ニ略ス)神戸ニ至レハ汽船ノ按鋪延引
セシニ付再大阪ニ至リ三十二銀行役員及五代ニ面會シ各由事
情モ承リ余カ考案(別紙甲号ニ詳記)ヲモ説キ聞カセ十八日神戸
ヲ乘シ東京ニ帰ル然レ氏同銀行ノ一頓ル心ニ閑スル取アルヲ以テ
本局ニ稟議レ課員二名(外山脩造)一別紙甲号ノ心得書
ヲ與ニ九月廿八日大阪表ニ發出セシメタリ其後出張官員ヨリ
ニ尋テ別紙三通ノ信看ヲ送ル照レ氏大藏卿ノ御帰ノ上稟不
議ヲ經尚何方ノ儀申送ルニテ其地ニ滞在スヘキ旨ヲ申遣ス

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

八月十六日大阪第三十二銀行に於り検査セントスルニ本月一日
以來帳簿ノ記載ナシ如何トモスヘカラス休テテ次ヲ遣レ帳簿ヲ
整頓セシメ數日ヲ経テ漸ク計算ノ端緒ヲ是ニテ得タリ其不始

告白

堪タリ殊ニ該店不始末ノ以テ世人多ク之ヲ知り預テ
抵テ引取リタリ故國人民ノ感嘆スナキト政府ノ

俾証アルトテ以テ社帯ノ流通ニ差支ナキモ 昭トニハニツクノ飛情
ニ迫レリト云フニシ ○余阪地世立ノ朝即九月十七日五代ハ不
得止
事故アリ来訪スル能ハル旨ニテ河鱒氏来リ其意ヲ致セラ曰三
十二銀行ノ事ハ五代モ大ニ之ヲ憂ヒ本自六日自本保ニ招キ之ヲ
亂剛セシニ他ヨリ借入金拾萬圓余アリ貸付金ノ内損失ノ恐
ルモノニ口アリ加之増株金ノ内猶五萬圓許ノ不足アリ(五代ノ是
迄ニテハ拾萬圓余ノ不足アリ云)五代ハ猶之ヲ以テ滿足セス其銀行

八月十六日大阪第三十二銀行に於り検査セントスルニ本月一日
 以來帳簿ノ記載ナシ如何トモスヘカラス休テテ次ヲ遣レ帳簿ヲ
 整理セシメ數日ヲ経テ漸ク計算ノ端緒ヲ是ルヲ得タリ其不始
 末ナリ言語ニ堪タリ殊ニ該店不始末ノ以テ世人多ク之ヲ知り預テ
 金ノ如キハ大抵之ヲ引取リタリ故國人民ノ感嘆スナキト政府ノ
 保証アルトシテ以テ社帯ノ流通ニ差支ナキモ殆トハニツクノ形情
 迫レリト云フヘシ○余阪地世立ノ朝即九月十七日五代ハ不特止
 事故アリ来訪スル能ハル旨ニテ河鱒氏来リ其意ヲ致セラ曰三
 十二銀行ノ事ハ五代モ大ニ之ヲ憂ヒ本月六日白本保三ヲ招キ之ヲ
 亂闘セシニ他ヨリ借入金拾萬圓余アリ貸付金ノ内損失ノ悲
 ツルモノニ口アリ加之増株金ノ内猶五萬圓許ノ不足アリ(五代ノ是
 込ニテハ拾萬圓余ノ不足アリ云々)五代ハ猶之ヲ以テ満足セス其銀行

大正十一年四月
 隈侯爵郵寄贈

甲号

八月十六日大阪第三十二銀行に列り検査セントスルニ本月一日
 以來帳簿ノ記載ナシ如何トモスヘカラス休テテ次ヲ遣レ帳簿ヲ
 整理セシメ數日ヲ経テ漸ク計算ノ端緒ヲ是ニテ得タリ其不始
 末ナク言語堪タリ殊ニ該店不始末ノ次第世人多ク之ヲ知り預テ
 金ノ如キハ大抵之ヲ引取リタリ故國人民ノ感嘆スナキト政府ノ
 保証アルトテ以テ社幣ノ流通ニ差支ナキモ殆トハニツクノ形情
 迫レリト云フヘシ○余阪地出立ノ朝即九月十七日五代ハ石得止
 事故アリ来訪スル能ハル旨ニテ河鱒氏来リ其意ヲ致セラ曰三
 十二銀行ノ事ハ五代モ大ニ之ヲ憂ヒ本有六日白平保ミヲ招キテ
 糾剛セシニ他ヨリ借入金拾萬圓余アリ貸付金ノ内損失ノ悲
 ツルモノニ口アリ加之増株金ノ内猶五萬圓許ノ不足アリ(五代ノ是
 込ニテハ拾萬圓余ノ不足アリ云々)五代ハ猶之ヲ以テ満足セス其銀行

大正十一年四月
 隈侯爵邸寄贈

ヲ検査セント桑言セシニ白本ハ之ヲ欲シタルニ自第一支店役員某
三井支店役員某ト謀リ日ヲ期シテ之ヲ検査セントナシタルハ子
細アリテ之ヲ止メ之ヲ其銀行ヲシテ其資本ヲ減シ鏡意諸事ヲ改
良セシメ白本ハ前ノ失敗ヲ償フタメ一層勸励セシメ然レ後キ之ヲ核
査シ其整頓シタル事ヲ世上ニ公告シ之ガ信用ヲ恢復セント欲スト
(ス上河籍ノ言及ミ翌日五代ヨリ) 余之ニ答テ曰ク余ノ是ニ之ニ異ナリ第一
資本ヲ減スルノ説ハ之ヲ救ハントシテ返テ之ヲ整スニ近シ何トナレバ該店
資本増加ノ許可ヲ得タルハ普ク世人ノ知ハ取ナリ然レ此際資本
ヲ減縮セバ益世間ノ疑議ヲ来シ遂ニ如何トモスヘカナルニ至ルヤ必
リ第二世上ノ信用ヲ失タルハ多ク白本ノ取高ナルカ如キヲ以テ今依然
トシテ之ヲ役員中ニ存在セシムルハ恐クハ信用ヲ恢復シ難カラシ
三同業者即チ三井第一等ト謀ラテ之ヲ検査シテ世上ニ公ニスルハ却
テ保護ノ點ニ度ラシ余カ是ヲ以ラスレハ先ツ白本ヲ免去シ別ニ確實

ナル人物ヲ撰テ之ニ代ラシメ一旦許可ヲ得タル増株ハ成丈之ヲ取纏
メ外兒ハ決シテ退縮ノ情況ヲ示ス漸次其内向ヲ調理改良スルヲ
以テ上策トス斯ク該銀行ヲ保護スルノ旨趣ハ當該銀行ノ為ニ
計ルニナラス全國ノ為ニ計ルナリ今我國銀行糸割ノ際ニ當リ
大阪ノ如キ要地ニ在テ千草屋ノ如キ名家ノ創立シタル銀行ニシテ
世間ノ信用ヲ失シ遂ニバンクrottニ至ルハ其全國銀行ノ興
致ニ差響者ヲナス實ニ僅少ナラス故ニ該銀行ヲ助テ其信用ヲ回復
スルハ該銀行ノ為メニ私スルニ非ス即チ全國ノ為メニ計ルナリト
右ノ如ク述ヘ河籍氏ニ別レ將ニ宿願ヲ出テントスニ際シ平瀬
並ニ甲谷某来リ謁シ頻リニ罪ヲ謝シ歎願ヲナス余問テ曰
五代氏ヨリ何ツ咄シアリシヤ平瀬等答テ曰ク粗同氏ノ説ヲ聞キ
余曰ク是刻河籍氏来リ五代氏ノ意ヲ述フ余ノ是ハ河籍氏
ハ亦細咄シ置キナリ同氏ニ就テ問取ルヘシト云ヒ棄テ出テ去ル

第一問、八ヶ岳
於テ捕、マル、ナリ
創業、既、白、木、カ
交、際、費、等、ニ、用、
シ、モ、ニ、ハ、非、サ、ン、ナリ

世人、凡、鏡、ニ、事
官、又、店、ニ、事、人、某
ノ、階、澤、ニ、出、ケ、ル
言、ウ、以、テ、銀、
此、答、ハ、實、ヲ、以、テ、
ル、ニ、似、タリ

中野ノ説、
位入金

五代ハ十五日間、
達、セ、ヨ、ト、白、
レ、由、
甲谷富子ニ五代ニ
休、頼、ス、ル、答

此、宣、付、ニ、口、ノ、如、ク
間、取、リ、タ、レ、氏、其、實、
或、ハ、口、ニ、テ、相、見、係、ス
ル、者、欲、ニ、計、ラ、レ、ス

神戸、至、レ、出、船、近、タリ、依、テ、大、及、立、度、リ、甲、谷、富、子、ヲ、余、カ、宿、取
ニ、招、キ、之、告、テ、曰、ク、余、ハ、今、三、ヶ、條、ノ、訊、問、アリ、正、直、ニ、答、フ、ヘ、レ、其、店、
不、始、末、ナ、ル、一、ハ、世、人、既、之、ヲ、知、ル、固、ヨリ、掩、覆、レ、得、ヘ、キ、死、ス、故、此、等
ノ、一、ハ、更、ニ、問、テ、要、ス、先、ッ

第一 其店：於テ創業以來、遺ト道ノ知レサル金銀ハナキヤ
答曰右様ノ一ハ決メナレ、遺、残、タリ、氏、皆、ツレ、一、遺、之、キ
胡、曠、ナリ、世、間、当、銀、行、ヲ、評、メ、舊、弊、ト、云、其、手、堅、キ
ヲ、笑、フ、ニ、至、ル、即、チ、其、証、ナリ

第二 白木：其銀行：在テ折合如何
答曰隨分良キ人物、テ、萬、事、世、話、行、届、キ、敢、テ、非
難、ス、ヘ、キ、ナ、レ、但、当、行、役、員、等、未、タ、銀、行、ノ、功、用、ヲ
知、ラ、サ、ル、ヲ、以、テ、早、其、實、功、ヲ、示、サ、ン、ト、欲、シ、ニ、世、理、ナ、
レ、事、ヲ、ナ、セ、ン、ト、ナ、キ、ニ、非、ス

第三 増株金：實際何程入金アリ何程振替ヲセレヤ
答曰五万円程振替ヲナシ、其外ニ悉皆入金セリ

又問實際悉皆入金調達スヘキ是、込、マ、リ、ヤ
答曰現時ノ形、豫、サ、レ、バ、必、ス、悉、皆、調、達、ス、レ
右、問、答、畢、リ、余、又、其、銀、行、回、復、ノ、一、更、ニ、勉、勵、シ、テ、其、功、ヲ、奏、
セ、ン、ト、欲、ス、ル、カ、ト、問、フ、ニ、誓、テ、心、カ、ラ、盡、サ、ン、ト、欲、ス、謹、ニ、厚、衣、ヲ、仰、ク、ト
云、テ、相、別、ル

翌、十、八、日、五、代、ニ、面、シ、テ、前、説、ヲ、
ニ、上、策、ナ、リ、然、レ、氏、其、實、況、ヲ、觀、察、ス、ル、ニ、殆、ト、救、藥、ス、(カ、フ、サ、ル、モ、)
ア、ン、カ、如、シ、今、孰、ニ、株、金、ヲ、募、ル、モ、之、應、ス、ル、ノ、ア、ン、ヘ、レ、ト、思、ハ、レ、ズ、故、僕、
不、得、已、下、策、ニ、出、ラ、ン、ト、欲、セ、レ、リ、然、レ、氏、今、足、下、ノ、言、アリ、精、々、之、依、テ、
整、理、セ、シ、ム、ル、ヲ、務、ム、ヘ、レ、○、現、今、該、銀、行、營、業、上、懸、念、ナ、レ、モ、
神、戶、ノ、地、所、格、當、ニ、テ、實、付、ケ、タ、ル、モ、
銀行ヨリ其社中手瀬、其、一、五、萬、
實、付、ケ、タ、ル、名、目、ナ、リ

四程并阿州人(彌山會社ノ者カ)ノ蒸氣船坦者、實附ケタル金若
千円ノ如キナリト云フ

前段ノ次第ナル、自出張ノ上、舉措ニ成機密ヲ務メ他ノ銀行ニ
少シモ構ハズ日、該銀行ニ出席シテ、心得ヲ以テ事務取扱ハレ

一 總テ該店保護ノ旨趣ヲ体シ萬事懇切ニ協議シ得ノ符員
ヲシテ真情ヲ吐露シ枝ヲ信シ如ク頼ラシムル様注意スヘシ

但不審ノ虞見片ニ厳密ニ取調時宜ニ依リ府知事ニモ相
談ノ上甚事實ヲ探偵スル等ノ一ツアヘシ

一 該店創業以來ノ諸勘定ヲ逐一精査シ且將來万事改良ヲ
圖ルヘシ

一 増株金ニ悉皆現貨ノ入金ヲ慥ニ是屆クヘシ

一 増加証書ニ既ニ差出有之付株主姓名並銘々ノ増株高
等事實増加証書ト相違アラシムヘカラス

一 若シ増株入金不調達等ノ一ツアヘハ平瀬等ノ自金(即銀行
資本)

外)ヲ株券引当ニテ貸付増株金ニ充テ或ハ旧株ヲ株券取
有ノ士族ニ賣渡セテ料ニ株券ヲ受取り増株ニ充テシムル等

適宜ノ方法アルヘシ其士族ノ旧株ヲ買ハシムル一ニ五代等ニ謀
ラハ多分調フヘシ尤モ士族ヲ募ルニ萬々已ムリ得サルノハナリ

一 貸借口ニノ形行サヘ分明ナレバ貸付金ヲ多心ニ引揚スル等
ノハ好マシカラス其邊ニ固ヨリ緩急アルヘキ筈ナレバ可成丈々

舒々ト著手ニ都テ世間ノ耳目ヲ驚カサス平穩ニ處置スル
ヲ要ス

一 諸取調向キテ整頓増株金實際皆入ノ上惣体ノ検査ヲ
遂ケ報告書ヲ製シテ歸京スヘシ

一 最初ヨリ諸事調理ノ始末ニ委詳筆記シ置クヘシ

岩崎小二郎

外山傾造後
堤長發後

出張官員ヨリ
送ル所書類

十経三印夕本和理現り

お取申有る大津泊り立
のり年及大坂着七の河鱒
此及湯に五代氏ノ名存り
之直々之ヲ訪フ曰氏ハ已ニ
私共ニ出展リ候（平池有馬
二名着取
流傳氏名ニ取アリシ云
其刻ニ及ビ辞シテ三年ニ銀
力到ル子田名取候
平池本在所一更所白
本ハ有在り早浦之り候
此ノ一曰候時ニ上ケル候

可ラ得
宜シカラ
表ッ
有、
主ト
ん者モ
檢査
ハ海等
ラタリ
和島園
紙部
匡教セ
名ラ同

年四月
寄贈

出張官員ヨリ
送ル所書類

り抵理但右ヲ夕印ニ経ナリ

お取申有月百大津泊り羽立
六百年及大坂看七百河轄
此及、湯し五代氏ノ所存り客
之直々之ヲ訪フ曰氏ハ已
私共し出陣ヲ知（平池有丹
一平池有丹
一平池有丹）
流傳氏ハ之を收アリし云
其刻之及い辞しニニ千二銀

手池ホッ所所 亦所白
本ハ不在り早速之り味
此之一日其時之と今了取

事ハ神ヲ金銀出物ヲ始リ此
事ハ委細ニ取用ルナリ
へしト名ニ右ハ平場人弟

之ヲ指責スル者リナリ
之ヲ依る世階我ニリ以テ大
之院在リ過矣ヲ實勘査シテ

之ヲ指責スル者リナリ
之ヲ依る世階我ニリ以テ大
之院在リ過矣ヲ實勘査シテ

之ヲ指責スル者リナリ
之ヲ依る世階我ニリ以テ大
之院在リ過矣ヲ實勘査シテ

之ヲ指責スル者リナリ
之ヲ依る世階我ニリ以テ大
之院在リ過矣ヲ實勘査シテ

年四月
寄贈
可ラ得
宜シカラ
表シ
有
主ト
ん者モ
檢査
ハ海等
ラタリ
和島園
低部
送致セ
名ラ同

子らんナレ割子又御懸
其然しとせし故に
也しニ後色未百憲巻ノ内
能道子母上ツ深ナレノ子守ヲ謝
（憲巻ノ内故ニ此也）
也ツ謹

我ニノことハ件スヘキタラ答フ
御申事也ハ子不嫌
介抱子ニテ教を士ノ如シ斯ク
心ハ融リ極ルニ皆水ノ人ノ心ナリ
物シテ介更あやノ御決シテ
吾とトトヤサカウ御
海ナリナシ或ハなる凡海ニヤ
言リ失スルノ御言ニ或生忠が

却テ不忠ニナリシカ者ノ之
シホク（先故ヨリ積重ノ者ハ狼狽ス）
ト申ヤガラ巴ニ自
信想セシト

好一對 平淑ノ娘おハナリ
弱モヤス先ツ平氣ナル凡ヤリ
他ニ情モナシテ有なきツ謝ス
ノ之ハ白ハお世ノ咄シノこニテ時
ヲ稱し仰りて子ノ着子セスニテ

洞ノ虫ノ介御事池
種ニ咄ラス自來ノ陰ノ遠リ
子甲リあり物有深リシニ介俄
之ヲ除ハシテ不致ナク生セシト
ノ説もアツクしが先ハ此ニヤ

娘来ニ申ヤハ生張モア
如来ニ整ヒシ上好機ヲ見計ラゼラ
ヤ

子甲ありけり物も得りし。今俄
之ヲ除。此ヲ不考ナク生セシト

ノ逆もつりしが先づはるり
始末し中も。生張モア

如まて整しし。好機ヲ見計らじうら

除ク下。其法。似し。意。中。こ。白。本

昨日。一。好。輝。破。ま。つ。る。出。し

夕リト。和。中。親。り。へ。到。う。か。ん。あ。り。て。但。し

知ルヘカニ。○。私。考。し。法。元。り。切。り。し。け

ル。一。と。儀。セ。ン。ト。款。ス。ン。時。ナ。リ。ト。平。風

ノ。多。ク。存。ラ。レ。ル。下。野。原。と。云

○。平。河。ノ。名。本。ヲ。信。仁。ス。ル。リ。似。子

寫。子。エ。モ。之。ヲ。除。ク。リ。難。シ。思。フ。名。也

事。情。ト。ア。リ。自。然。ノ。風。南。端

ノ。意。ア。ン。様。子。ニ。マ。テ。二。條。平。也

大。分。情。意。ノ。様。子。あ。る。ん。主。リ。可。惜

拂。金。凡。々。目。算。并。元。立。テ。テ。沈。沈。素。意

著。ハ。ハ。終。極。意。思。を。ん。持。つ。る。モ。ア。リ。ト。云

リ。信。乃。新。光。中。ハ。白。木。ノ。一。件。昔。に。沈

君。宜。否。を。成。ス。へ。シ。我。々。を。之。ウ。沈

計。一。年。ノ。取。柄。ニ。着。る。ス。へ。中。身

ヲ。沈。し。法。元。ノ。切。り。平。第。様。子

通。り。日。表。ラ。ル。リ。沈。帳。落。リ。月。の

現。在。亦。シ。沈。々。情。意。如。昔。ノ。様

查。セ。リ。但。是。幼。子。リ。下。タ。ス。時。様

查。ハ。セ。ス。ト。云。乃。沈。ま。り。一。沈

計。以。算。并。多。細。様。子。と。様。子。ス

ノ。様。子。一。沈。先。一。様。子。取。し。是

カ。サ。シ。ハ。違。ハ。ル。通。リ。ナ。ク。不。好。カ

ホ。シ。先。一。通。リ。ノ。様。子。ヲ。好。ム。ン

ナ。リ。信。乃。何。リ。沈。々。情。意。昔。ノ。様

調。子。上。テ。有。様。子。一。計。算。并

榎金凡々目留并元立テテ
著之れ給相立候所ナリ
テハ此ノ上
テハ此ノ上
テハ此ノ上

リ 依り新元中ノ白木ノ一件昔
君宜方ニ成スルニ我ニ之ニ
計一年ノ取柄ニ着スル中
テ 決シテ成スルニ到リテ
通り表ナリテ帳簿ナリ
現金並ニ他ノ債証如ク
査セテ但是種子下々
査ハセテ之ヲ
計心算多細梅トモ
カサレテ
在元先ニ
ナリ 依り
調平上
多細梅トモ

右ノ取柄
却ル
之ニヨシ
免中
取
年ニ
年ニ

十月
堤・長
外山

山崎小三郎様

玉杵下

外山情造
堤長發

Handwritten text on a slip of paper, likely a letter or note, written in cursive Japanese calligraphy.

無無

Main handwritten text on the left page, written in cursive Japanese calligraphy.

大増才経三印夕夕在但現

Vertical text on the left side of the page, including the characters '現' and '抵'.

年四月
寄贈

Bottom section of text on the left page, including the characters '有', '表', and '招'.

外山傾造後
堤長發後

前山傾造後
堤長發後
外山傾造後
堤長發後

無無

大僧可經三多ヲ無但現抵り

お然多反清祥
お然多反清祥
お然多反清祥
お然多反清祥

夕ス事、頗、困難此事
情ト以、明ク、多、深
漢、送、サ、実、如、存、了
可、心、事、一、下、中、就、テ、
思、方、事、分、知、之、れ、之、想、
如、方、事、分、知、之、れ、之、想、

年四月
邸寄贈

可ラ得
且シカラ
表ソ
有、
一、主、ト
ん者、
、極、香
、海、芽
ラタリ
コ、島、園
、低、部、
、区、名、セ
名、ラ、同

可ひと動り、一の中を解す
四ノ市分知されし御
如り、今年十ノ日、御
要地ノ事、りしが
千、登、御ノ人、之、旧、擧
遠、御し、支、名、リ、後、付
支、名、リ、後、付、之、り、れ、
亦、後、付、之、り、れ、
双、方、之、後、付、之、り、れ、
四、月、之、間、一、ノ、あ、ぬ、は、
皆、之、意、方、向、一、ノ、至、急、
良、高、案、及、傳、之、り、
方、支、御、一、名、ノ、所、乳
高、之、於、之、あ、り、れ、
支、御、一、ノ、所、乳
之、御、一、ノ、所、乳
御、一、ノ、所、乳

子ノ

知、是
お、負

一、月、一、日、之、御、長、若

御、心、御、送

山、若、崎、一、二、三、ノ、様

御、心、御、送

我何んを奉るや
双方これ後、
同付く、
賢く慮る方、
良高案、
分ち、
高、
有、
因、

子
お貞

一、
お心造

岩崎、
様

お心造

再伸、
お心造
お心造

外山傾造後
堤長發後

象象

Handwritten text on a slip of paper, possibly a signature or a note.

一年四月
寄贈

大... 増... 經... 多... 但... 現... 抵... り...
一... 魚... 上... 納... 者... 東... 京... 出... 張... 計... 一... 區... 爲... せ...
... 右... 八... 費... 行... 紙... 部... 一...
... 先... 課... 負... 二... 名... 同...
... 可... 得...
... 且... 且... 且...
... 有... 有... 有...
... 主... 主... 主...
... 者... 者... 者...
... 控... 控... 控...
... 海... 海... 海...
... 拾... 拾... 拾...
... 拾... 拾... 拾...

文明ノ一環也其の白糸
矢強ノ一環也決議決りの白神

三七一却之ヲ
今口(即チ草)中人

古世しる事トヤ出テメリ修徳

中内常ノ核園七一草ノ才ニ

多々増換ノ部中ニあるル一ノ相

創業ツルヲ其為(実)在セモ

不亦儉ニ事一併コレノ

三十一ノ底 其實ラナル味

其内常一ノ後何あ

前花ルニ増株若此ノ

既ノ事見 西ノ事ニ中ニ

其月申ニ多々之來就

三其目的ヲ確定シテ

其ノ了取リノラニ此部

多々時ノ遷延ニ抱ラス

其見西ノ事ニ其ノ中

其ノ白ノ尤内常一也

其ノ一増株念ツルニ

其方コレヲ出シテ致スル

其ニル年見込有ルニ付

其増ノ玉ニ精ニ事ヲ

其及ニ事一五代中ノ既ニ

其之ノ事一ノ事一也

其之ノ事一ノ事一也

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

其目的之確定

外山傾造後
堤長發後

Handwritten Japanese text on a slip of paper, likely a letter or a note, written in cursive style. The text is partially obscured by the binding of the book.

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

大阪有廿六園と銘力、曩キ増株、許可ラ得
増加証書ヲ差出セリ然レ、同銘力ハ往々宜シカラ
ナル凡爾耳、果シ爾レ、以テ嚮キ、静因表ソ
経過セシ、時同地、ハ誤銘力、株主モ多ク有、
ニ身入全、模様尋問有セタル、因果シテ株主ト
銘力ト、同銘儀、生シセ、除名、白リタル者モ
多ク、有之、越ニ身、月十四日、一層厳重、検査
ヲ遂ケタル、全銀有、高シ、始、其他諸帳簿等
悉頓シ、其心際、ヨキ、我々想像、外、出ラタリ
但、一覽表、掲ケタル、起業、公債証書拾、島園
現、如無之、ニ身、其故、問ヒシ、右ハ、發行紙、切
抵、書トシテ、上納、為、ノ東京、出張、所、へ送、着セ
リト、若、フ、右、ニ身、我々、飯、本、ノ上、先、課、負、二、名、ヲ、同

出張外へ借ハレ起業ヲ後初春、實否ヲ調査
セシメタルニ別紙(甲号)ノ通り報告セリ之に拠リ
テ考フルニ増加証書ヲ差出スノ期限迫レ急ニ
株有莫方集、道ナキヨリ池田家ト謀リ拾萬
圓ノ金額ヲ借ハレ之ヲ以テ一時株主ヨリ全
ノ体ニ取借ヒタル後徐々ト株主ヲ集古シ之ヲ
以テ池田家へ返償ノ道ヲ立テントノ目論見ニテ
無之カト忽チ疑周ヲ生セシヨリ大阪出張外山
宿造等ニ別紙(乙号)ノ如ク申送り(別ニ私状ヲ
以テ現今幕集シタル丈ケノ金額ニ減株出願スル
方可然否出張官ニ申合メタルハ同氏ヨリ
別紙(丙号)ノ如ク私状ヲ以テ申奉果シテ我々
ノ推量ニ違ハス右拾萬圓ノ全員ソ以テ全

ノ体ニ取飾、タルヲ兼知セリ尋テ大阪府一季所
ハ本原理スル門別紙(丁号)渡邊知事、添書
カ所由(戊号)池田家々々令水原久雄ヨリ添書
知事ニ差出シタル書函ニ帯ヒ十月廿八日者地
ニ来テ使館力不都合、顛末乃右ノ如ク添書
知事ノ意見見シモ轉々陳本ス蓋シ知事ノ意見ハ
頗ル之ヲ保護スルニ在リ、本系ヲシテ云ハレシ
ル所ヲ聞クニ大阪府下ニ於ケハ近頃ニ至リ漸ク
銀力ノ衰配モヨク取引上信用ノ道モ稍閑ケ
トスルニ方リ何レノ部力ニ倚ナリ一本在障ナ
シスル片ハ府下ノ人民必言ハレ銀力ハ倍スヘカ
ラ有ルモノト果シテ然ラバ何等ノ難儀
トナルハ勿論理窟上多ク(傍)郷方ヲ現出スルニ

難斗、二、年、日、節、日、如、キ、キ、姑、々、寛、大、處、也、ラ、レ
其、後、復、内、ウ、改、章、シ、大、銀、行、ノ、性、質、シ、一、變、
シ、永、債、也、シ、ノ、存、ト、ノ、報、者、ナ、リ

事由

此、三、百、才、二、十、六、兩、之、銀、也、出、法、所、ニ、其、所、シ、奉
入、其、交、在、其、華、族、池、田、章、路、方、ニ、其、所、托、也、
越、之、行、即、其、出、法、所、法、シ、若、何、池、田、家、ニ、
子、田、即、其、債、持、子、田、ノ、交、九、日、十、四、才、ニ、
其、所、中、極、少、也、細、シ、高、ノ、右、所、ケ、高、シ、四、才、
五、才、四、才、川、出、其、日、現、其、高、ハ、全、ク、其、面、積、
ニ、シ、テ、極、少、也、其、所、シ、モ、ノ、ニ、其、所、
同、カ、ル、テ、極、少、也、シ、既、ケ、金、銀、持、子、田、
極、少、也、其、入、其、儀、ニ、其、所、シ、其、依、
テ、其、所、シ、也

難斗 二身 日部力、如キキ姑、寛大、處セラ
其後復、内ヲ改章シテ、銀力ノ性質シ一
ニ永債セシノ存トノ振奮ナリ

此三百才二十六(由之部力)出法所、其版し奉
入更交右之華族池田章政方、及就托並
越之付即部出法所、諸し若田力池田家、多
子田即實價推子回し交九日十零、之り其
我部甲極高、細し高ノ右既ケ高し、四ノ武
五ノ四ノ川、出多ノ日現、五ノ全ノ若、而於
こしノ強、強力、死、之し、之ノ、之、之、
同部、ノ強、強力、し、既ケ、金、既、推、子、回、
極、高、ノ、事、入、之、儀、之、之、之、之、依、
ノ、既、強、強、力、也

明治二年七月

印

才七六回之銀力之配人

津田道賢 卜

浮原源太郎 卜

池田章政 辰

乙

全株萬圓也

証

右ノ全額之銀ヲ申入來ル十二月廿五

以証書ヲ授与シ置テ左ノ如ク也

才七六回之銀力之配人

池田道賢 卜

頭取

浮原源太郎 卜

池田章政 辰

池

仁し用成ハ河原界哉

才三石五十四一石

一金四千圓也

此葉之頃証書五石

才三石五十四一石

一金壹万六千圓也

日高

式万圓

右証書之頃証書五石借上花苗、之証書不
行成幣以下信し之可証書五石上可証書及
日証書也

才廿六圓是証書

以及七年九月十日

永吟良幸

池田幸早政

區取才廿六圓是証書

之頃証書五石借上花苗、之証書不

行成幣以下信し之可証書五石上可証書及

日証書也

才廿六圓是証書

以及七年九月十日

永吟良幸

區取才廿六圓是証書

之頃証書五石借上花苗、之証書不

行成幣以下信し之可証書五石上可証書及

日証書也

才廿六圓是証書

以及七年九月十日

永吟良幸

區取才廿六圓是証書

之頃証書五石借上花苗、之証書不

行成幣以下信し之可証書五石上可証書及

乙号

石

仁し用成ハ石多ク界成

大藏料

才三石五十四ノ石
一合四千圓也
才三石五十四ノ石
一合壹万六千圓也
口高
式万圓

九折量之後
石量千石借
古我前
之他味
手成幣
以下後
之折
金返上
可仕
石少件

才廿六圓
石少件
永吟良業

池田重早政殿

至近般才廿六圓
石少件
手成幣
以下後
之折
金返上
可仕
石少件
才廿六圓
石少件
永吟良業

銀行金の以て一時増進し入金し得るに依り
 保てを以て其利息を以て其利息を以て其利息を以て
 増進し之果して其利息を以て其利息を以て其利息を以て
 之を以て其利息を以て其利息を以て其利息を以て其利息を以て
 之中に入ると也

課長

長官 静正表より
 完備の義より其交回其利息を以て其利息を以て其利息を以て
 之を以て其利息を以て其利息を以て其利息を以て其利息を以て
 之を以て其利息を以て其利息を以て其利息を以て其利息を以て

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

甲号

丙

明徳十一年 十月十六日	大坂第六名立銀行信託部之九帳差引残高一覧表	借摘要	金額	積摘要	金額
○人民ヨリ借				○政府ヨリ借	
○紙幣準備金三万四				○紙幣準備金	四一八六〇
○内許有金二百四	一九八〇〇			○証券準備金	八〇〇〇〇
○定期預金	一、二五〇			○小計	一二一八六〇
○当座預金	二、四五〇〇七三			○人民入貸	
○小計	二、三五〇〇七三			○貸附金	四〇、二二〇
○換益勘定				○当座預金貸越	二、九五七〇二
○利息	七、三一八五			○諸買入元金	二、三三九六五〇

紙幣準備金
一万四千
起算日
一月四日

既三様分り
要入しと名
面額計未済

テ池田家ヨリ加入
 南多分ヨリ工部局
 加入の保証金等

大正十一年四月

銀行金を以て一時積立てし入金し俾て事務に
 依りて是れを御金と称し之れを以て一日の
 終りに之れを以て代りて之れを以て代りて

交換打歩	二二九〇	小計	六五五八二三五二
雑益	二二七七四	〇支店貸入	
小計	七三四五九一七	次貸本金	一八〇〇〇
〇株より借		〇支店	一一四三一〇〇
株金	二〇〇〇〇〇	東京出張所	二、三〇〇
		西京出張所	一〇〇
		小計	二、五四三、一〇〇
		〇損益勘定	
		手数料	一八三〇
		給料	一、五五五、三七六

未定

丙

四百五十四兩
 銀五兩
 銀六十八
 百三十四兩
 四百三十二兩
 未定

旅費	一〇六七七二五
營繕	四五九六二
雜費	二、一〇三、五五〇
小計	四、七七四、四四三
〇補正勘定	
銀行所有物	七、二八四、三四三
什器	二、一三、四八
〇金銀有言	九、五九〇、四〇四

テ池田家より加入
 南ふふ南行工
 得る程に加入

第一六四銀行

丙

(七号)

一重式第百回

以内記

五五千回	五拾
〃三千四百回	五拾
〃二千四百回	五拾
〃二千三百回	五拾
〃二千回	五拾
〃一千五百回	五拾
〃一千回	五拾
〃五百回	五拾
〃二百回	五拾
〃一百回	五拾

テ池田カキヨウノ加入トモ成リ積立ニ至リテ
 高島カキヨウノ加入トモ成リ積立ニ至リテ
 高島カキヨウノ加入トモ成リ積立ニ至リテ
 高島カキヨウノ加入トモ成リ積立ニ至リテ

高島カキヨウノ加入トモ成リ積立ニ至リテ

頭金九千九百一十兩
 保金二千五百兩
 積立金九千九百一十兩
 積立金九千九百一十兩
 積立金九千九百一十兩

總計

二二〇、八四五九九〇

總計

二二〇、八四五九九〇

高島カキヨウノ加入トモ成リ積立ニ至リテ

東京に於て... 我ハ其ニ付テノ故... 海長と報を... 公上ニ... 權外ノ... 尤之ヲ保... 護スルニ... 助ケル... 報を... 誰グ出... 長北若... 案...

アサリ... 然レモ... 出... 馬トナリ... 紀... 報... 只今... 付... 約... 約...

又知事... 面... 開... 池田家... 書面... 水... 出... 自分... 其... 中... 信... 就... 急... 所... 出... 是... 近... 是... 此...

海長と... 報... 誰... 出... 長... 案... 誰... 報... 誰... 出... 長... 案... 誰... 報... 誰... 出... 長... 案...

八月廿九日... 海長... 案... 誰... 報... 誰... 出... 長... 案... 誰... 報... 誰... 出... 長... 案...

取り金より一付掛り入り金に併せて繰上
保に之を申し付金より掛り金に併せて繰上
格差し之を申し付金より掛り金に併せて繰上

以て面を貸す

西郷方印

本月初十日第一六回之旨行リテ検査セシニ其貸付
ハ前紙一覽表(甲号)ノ如ク外ニ七号ノ通地田家ヲ
圖ノ類ヲ証出テリ且ハ九月十日附取付振古ノ為メ引出シ
式万五千圓ノ起業ノ債証出テ代リテ預メル者ナリ右一覽
表中起業ノ債証出テ八万圓(買入代價)ノ一ヲ取調ルニ付
同表ノ概要尤

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

丙

丙号附属

本月初十日第一六回之旨行リテ検査セシニ其貸付
ハ前紙一覽表(甲号)ノ如ク外ニ七号ノ通地田家ヲ
圖ノ類ヲ証出テリ且ハ九月十日附取付振古ノ為メ引出シ
式万五千圓ノ起業ノ債証出テ代リテ預メル者ナリ右一覽
表中起業ノ債証出テ八万圓(買入代價)ノ一ヲ取調ルニ付
同表ノ概要尤

○同フ此起業ノ債証出テ其ノ代メセシヤ○答
ナ東東出張所ニ送テタリ尤直ニ此省ノ内ノ都府ニ送テ
テ池田家ヨリ加入ノ旨成リ積取リ積取ニ付
テ池田家ヨリ加入ノ旨成リ積取リ積取ニ付

テ池田家ヨリ加入ノ旨成リ積取リ積取ニ付
テ池田家ヨリ加入ノ旨成リ積取リ積取ニ付

大正十一年四月

銀行金ヲ以テ一時積立シテ入金し俾ニ各銀行
保シ之を以テ銀行金ヲ沙断シテ一之に日銀ハ

リ証書ヲ一見セシ〇答 此時坂井ハ頭取ハ至リ呼 地内家ハ我々ノ曰

ヒ人ニテ也銀行ニ由緒ニ有テ出所所法ノ者高直ノ交

分ツルテ一時保護預ケラセシ熱故、証書アラバ出所所

アルレ本店、於テハ又、圓書セス〇問 先リ地内家、銀行ヨリ入

此約定書ハ知ラサルヤ〇答コレハ内端、一テ此書ヲ一時供

アリシモ今ハ既に事済ハトナリ最早年勤ニ陳セシモノ也

ソレ故ニコソ預金セシモノナル 此際言ハ該暖味行ノ勝ラ 〇問年勤

公ニテ之ヲ出セシモノナル 此際言ハ該暖味行ノ勝ラ 〇問年勤

局シタル証據アリヤ〇答内端ノ一テソレモ確証云 此際言ハ該暖味行ノ勝ラ

本ノ決算書ハ右答年ノ熱即チ此証書ハ既テノ事實

丙

明細書面ヲテテ中出トヤセシ、東京出所所法、後免

明細行ニ帰後ノ案ヲ彼レト打合タル上、委曲中出ト法

ヲ決メソレハ、及ハス本店ニテテ知らん所即チ口口有

正ノ熱カハ明細、分レバ子足シリト答、澤平該ノ席

ヲ返テ扱井ツメ右書面印、刻、補ヒ疑ニ熱カハ此新録

シヒテ信テ明細書面、一時約メ云ル

ナキルハ、案ハ、時、扱井、素、ラ、ナ、時、之、事、出、云、面、ノ、ハ

因テ、地内家ト、一、案、係、不、少、之、ラ、明、細、ハ、ス、レ、バ、口、口、不

都、店、ツ、案、面、取、セ、サル、コ、ト、得、又、頭、取、ハ、於、テ、ハ、口、口、中、ノ、口、口、不

シ、甘、苦、ニ、案、ノ、儀、有、テ、熱、カ、ハ、知、事、ト、同、家、陽、也

テ、池、田、家、ヨ、リ、加、入、ト、成、リ、和、友、種、ト、口、口、口、口、

口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、口、

明治十六年銀行

取り金ヲ以テ一財 獲るルヲ入金ノノ件ニモ係る
候ニモ幸シク御金ノ所ノ御金ノ所ニ一ノ日御金
...

三位殿ノ御金ノ所ニ入金ノノ件ニモ係る
取リ金ノ所ニ入金ノノ件ニモ係る
...

丙

テ他ノ家ヨリ加入
...

...

...

萬一六國銀行

頭金を以て一時借入金とし俸之に後を
 保し今を以て御金に引換えし一十九日銀の
 事とし之果して代わらば之を以て御金に引
 換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引

来り池田の家に入る金様を下して御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 するに決り預り証ある御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し

(丙)

廿二日午後五時頃迄に金様を下して御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し

前より御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し

テ池田の家ヨリ加入の御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し
 御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し之を以て御金に引換し

新し金を以て一時積立てし入金し俾て其後を
保て之を以て其後念ふ所無き事一十九日銀の
不足し之を以て代りて其後念ふ所無き事

後ノ通サレバ保護スルコト本意存存故に其後念ふ所無き事
今去我者ノ權ハ控者限ルルに當テ其後念ふ所無き事
長ニ申報スルノ事ト答フ午後及譯系来り包送者
面ヲ出シテ号ニ面ハ返却シテ之ヲ川程ニタリ
以上

明治三十四年十月廿四日

増長茂
北山伊造

山崎小三郎殿

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

(丙号)

と申一書

高麗地之租税等ハ金控者ノ公許ヨリ好
りて半額奉納せり中央増加税者控者方
田畑ノ在租税等ハ其後念ふ所無き事
増入金控者取の事ニ至りて其後念ふ所無き事
ハ高麗地ノ租税等ハ其後念ふ所無き事
一時強りたすことハ其後念ふ所無き事
ハ高麗地ノ租税等ハ其後念ふ所無き事
増入金控者取の事ニ至りて其後念ふ所無き事
ハ高麗地ノ租税等ハ其後念ふ所無き事
テ池田家ヨリ加入金控者取の事ニ至りて其後念ふ所無き事
高麗地ノ租税等ハ其後念ふ所無き事
増入金控者取の事ニ至りて其後念ふ所無き事

明治三十四年十月廿四日

此の所々を記我不修原中へ此を主たる道に
 西遊此のよ成其の以不致左に右の道に修
 徒此の道に其の決意不修原へ加入する者
 十分出本りの年池田中修決意し吾等中々同
 同中修の不抱其の加入する者も押式修の道
 して子成も運つれ申し修此の道に申す中央
 全高事情に直し修原の道に修原の道に不修
 し原中の方此の道に修原の道に修原の道に
 池田中修の修原の道に修原の道に修原の道に
 此の上の道に修原の道に修原の道に修原の道に
 美久とゆふる道に修原の道に修原の道に

此の世の國之道に修原の道に修原の道に

明治工部省丁日十号り

子死人

津田道修

日野名

澤原修原

此の世の道に修原の道に修原の道に

此の世の道に修原の道に修原の道に

此の世の道に修原の道に修原の道に

此の世の道に修原の道に修原の道に

一五乃回

水原久修

一五乃回

此の世の道に修原の道に修原の道に

明治十六年四月

一九千回	池田の長
一九千回	池田の長
一七千回	井上隆彦
一七千回	吉川信孝
一七千回	永田良幸
一千三百回	中田道実
徳吉川おち回	
右の通り也	

池田家、條約書、既に、出詳知、毛ノ存之ヲ思入、外山

丁号

款取出

大正十一年四月 大隈侯爵邸寄

貴銀行、於テ池田家、全額、全額、全額、
 手続、及ヒ、其、情、別、一、仕置、の、裁、に、由、り、
 此、六、六、六、六、六、六、六、六、六、六、六、六、
 外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、外、
 池田家、の、長、の、仕、り、の、何、年、日、数、廿、廿、日、
 日、数、中、に、手、續、の、由、り、の、何、年、日、数、廿、廿、日、
 日、数、中、に、手、續、の、由、り、の、何、年、日、数、廿、廿、日、

左ノ通り也、
 左ノ通り也、
 左ノ通り也、

一九千四
一九千四

四回白土
野乃庄土

新立所始終事情亦同家に成る所無白土
古新縁、程以秋養可也採伐了り其後也

明治十年十月十日

同日道員
野乃庄土

古新者新り採

山小何迄及
堤 古新及

讓料と見えは、

一重七万五千圓

を以て方子成り信入を満

一重八千四圓

を以て高槻村の

一重九千四圓

福丸の石界山

三重九千九百六十圓

高槻村一見たり高槻村ノ入をトアルハ福丸ナリ

但該者、旧株ハ只五万四ナリ憲法之ヲ讓渡スモ五万四ノ外

ハ見当リなし方多し其ト存シ

新立所始終事情亦同家に成る所無白土
古新縁、程以秋養可也採伐了り其後也
明治十年十月十日
同日道員
野乃庄土
古新者新り採
山小何迄及
堤 古新及

一九千四
一九千四

田圃白土
野馬庄土

頁一六國三金行

巳

(戌号)

只今亦や出之要者ヲ摘録スレバ左之通ニ示ス

一増加株金ニ七月迄ニ於テ悉皆入金ヲナシテ付シ當ニ

水至久雄外七名ノ者入金並支當額ノ名前

ニテ地目取ヲ於テ圖ノ額金ヲナシテ右名雄

ハ名ノ株金トシテ當額ノ入金レタリ

一六月迄ノ地目取ヲ於テ圖ノ額金ヲナシテ右名雄

額ノ帳簿共記入ス

一七月迄ノ帳簿共記入ス

ニ引變正金トシテ當額ノ入金レタリ

レタリ右ノ帳簿共記入ス

左ノ帳簿共記入ス

左ノ帳簿共記入ス

左ノ帳簿共記入ス

身元十六國三銀行
八月五日池田家入金五万石者トテ故トシテ
式ハ云々備々其の條ヲ表シテ其ノテ未定
云々ト申シ其ノ次第ハ之レ等トシテ今固ク十
月内ノ右ノ如ク其ノ事トシテ全ク其ノ事
子ノ陳書トシテ合シテ之ノ宜キニ古
シテ其ノ事トシテ

四月十日十八日

同 取手取

津 一原源太郎

其ノ如ク右ノ如ク
其ノ如ク右ノ如ク
其ノ如ク右ノ如ク

此ノ如ク十月十日



銀行之毎ニ付テ其ノ如ク
其ノ如ク右ノ如ク
其ノ如ク右ノ如ク

壬午十月廿五日

大坂府参事渡邊昇



銀行課長
大坂府書記官岩崎小二郎殿

奉命令池田家入金をく者一に故といを
式ハ云々備えたるに際し表といを
云々上申一なるに於ては全圖外十
あり右の如くありしに全りありし
その陳書古照合と云ふに宜む古
し召すし仰り

四月十日十八日

同 取手取

津 一原源太郎

之に右記の如く
おのし修造
長 豊後守

此書四月十日十八日

府の銀行之毎に付各無り次第
有之一等馬八本原理右門
及び買者佃同人ヨリ以笑取
成文は及及係重也

壬午十月廿五日

大坂府参事渡邊昇



銀行課長
大坂府書記官岩崎小二郎殿

小

手付金池田家入金をく者にて故に元
或ハ云ハ備也其の修り表に
云ハ申一各次外には望り
成成右の修り表に全り
子の陳書古照合と云ハ宜
し召子仰也

西暦十月十八日

同 取手取

津 一原源太郎

おの修り表
長 考及る

此書は十月廿二日

丁
号

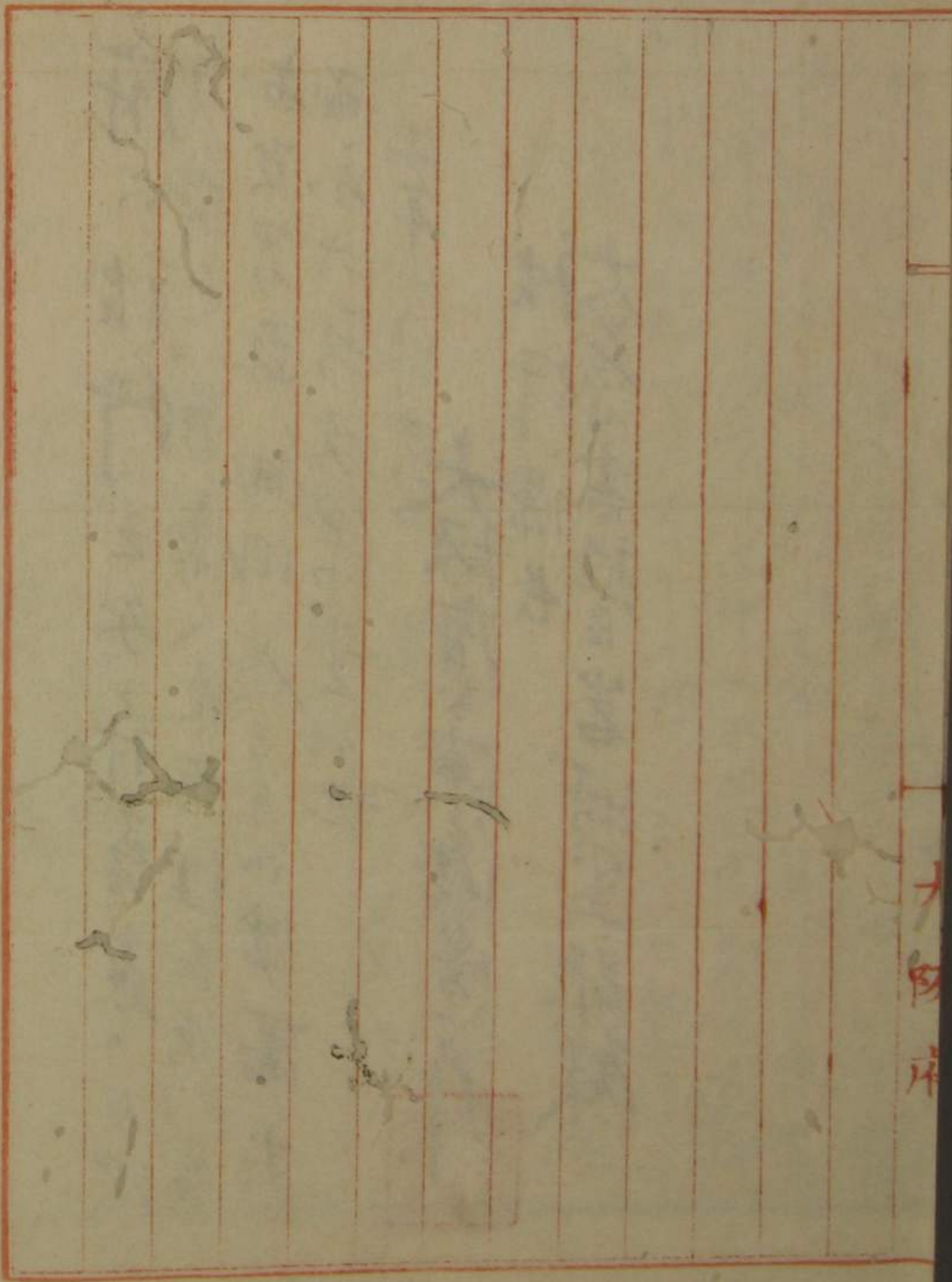
府の知行之各三付
有之一等馬八本原
成及る及係書也

大坂府参事渡邊
知行 課長
大坂府書記官岩崎小二郎殿



第十、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

如滿廿六國立銀行 資亦宜增加之
一、銀行之數、池田之意、可裁人員
之名義、以予、全指、百、加入、改、至、如
內、將、可、能、合、之、儀、之、有、之、全、指、百、內
一、所、候、行、初、之、初、也、始、起、業、公、債
部、亦、不、相、類、之、也、而、後、子、達、大、部、也
公、債、各、亦、所、行、之、也、際、之、各、者、其、議、也
初、之、公、元、八、月、未、同、少、初、之、富、用、子、也、也



先取滿廿六國立銀行一資亦宜增加之
際海行之數之池田定之可裁人員
之名義可以令其加入改定
內將可以能令之儀之者之全務方用
一可候行初之始也其起業公債
部亦不相類之也而後子連方部也
公債亦不相類之也而後子連方部也
始之元年八月末同山物之用子連方部也

戊子

先取滿廿六國立銀行
 資於定增
 際後行：對池田定：可裁人
 之名義可以令其加入
 內將可以能合之儀者之全務
 一可候行初：初步起業公債
 部去不相親：是市後子速大部
 公債各本：法初之近際：各者其法
 物：元八月未同少：家用子

第十一國立銀行

六手 沢澤 之 迹 古 海リ 坊 下 外 号 移 之 跡 古 澤
 別 起 業 之 債 証 申 出 年 號 上 初 凡 一 印 誤 行 工 区
 所 以 子 孫 古 遠 年 々 口 河 所 在 亦 以 証 上 證 也

旧跡 十 年 十 月

池田 半 政 家 持
 水原 之 雄

大 河 府 知 事 渡 邊 昇 殿

人 名

- | | |
|-----------|--------------|
| 一 合 五 十 月 | 水原 之 雄 |
| 一 合 七 十 月 | 澤原 源 太 右 衛 門 |
| 一 合 九 十 月 | 池田 四 郎 三 郎 |
| 一 合 九 十 月 | 藤 岡 亦 三 郎 |
| 一 合 七 十 月 | 井 上 雅 彦 |
| 一 合 六 十 月 | 永 嶋 良 孝 |
| 一 合 七 十 月 | 宇 治 信 吉 |
| 一 合 十 月 | 津 田 左 衛 門 |

甲号
乙号
丙号
丁号
戊号
己号
庚号
辛号
壬号
癸号

第

一

二

三

Handwritten notes in a vertical column, including the characters '一合' and '二合' at the top. The text is written in a cursive style and appears to be a list or record of items.

六千八百式拾三圓拾九銭五厘

現金有言

差引

Vertical text on the left side of the page, likely a ledger or account book entry, containing several lines of handwritten characters.

第十、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

地知りヲ検査せしニ多ク
外ニ取来らるしヲ為池

方ノ病者ニテ遂ニテ海方
帳簿整理ニ依テ收細帳
切子ニ就キ多ク引取言
現金ト突ケテ十セシニ

書シ其身ニテ準備金九
百者ニテ不取暫不取
此ノ依り先取検査ノ

金不足ニテ何月或ハ之
充タシタルヤト尋問
明瞭ナラズ又空ニ弟

リ取ケテ多クタルニ
九月ニ至リ取らるニ
タルトニ記載アリ依

速ニ之ヲ改正セサリ
セシニ一トハハレ取
ミナリ一トハ金入金

之ヲ平儀ニ為カサシ
上者金ノ不足ヲ取
以テ之ヲ取正スルニ

支リキニ至ルニ
タムキリトハ○又
備金不足ナリ為

斯ノ準備ノ不足ヲ
ルヤト尋問セシニ
リタルモ万田ハ全

日様ノモノニ分ヤ
取年ニ至リトハ
ル分ニ準備金ニ

ニ者各タリ依テ先
キ平本内ニアラ

取年ニ至リトハ
ル分ニ準備金ニ

ニ者各タリ依テ先
キ平本内ニアラ

取年ニ至リトハ
ル分ニ準備金ニ

ニ者各タリ依テ先
キ平本内ニアラ

日様ノモリニ付ヤハリ準備ノ
お成々トト心付、お松、送らる
ル分ニ準備ニお成々トト心付
ル者各夕リ依テ先般大御所
より平本付ニアラサレ由之記
預ケ金云云ノ違ハ違メテ心付
之右様、他方一送り夕々心付
準備ニ立ッヘキ宛テ之様ニ皆
夫ニ使用此目的アリテ送り夕
モリナリ然レニ準備ニお成々心

おトハ不敷クアラスヤトカ
如テ付奉
極至着手ノ際、準備金ノ内、下
千四百名を先般ノ送り夕々ナリ
之レ心ノ付、御所ノ送金、系、松平、系、極至
ナリ、私共も本控金、夕々心付、送り夕々ナリ

此傳ニ御解中御意ノ早送名
見屋分ニ全取、お成々心付、依
テ又夕々心付、在社ニお成々心
付、夕々心付、送名、お成々心付、お成々心

其金ヲ見夕々心付、昨日ノ換査
消滅スル得ニ送ラス、夕々心付
夕々心付、義ニお成々心付、夕々心付

又お成々心付、夕々心付、御所
夕々心付、夕々心付、御所、夕々心付
夕々心付、夕々心付、御所、夕々心付

夕々心付、夕々心付、御所、夕々心付
夕々心付、夕々心付、御所、夕々心付
夕々心付、夕々心付、御所、夕々心付

夕々心付、夕々心付、御所、夕々心付
夕々心付、夕々心付、御所、夕々心付
夕々心付、夕々心付、御所、夕々心付

左ん可トアラスト暮夕ウ ○夕刻

と松を人旅者ニ有り幸ニ出のりん

七才印也中神急しく而後ハ驚

力ハんハハ驚をるる印分ハ

右を乳名陳述セリ陸路送鳥

知共ハ面自をくし趣コテ来ラス

(子取ハ狼狽ノ) ○夜ニ夢ヲ感得

加ニ庶興ニ即其り言ハテ太

い中神モ急しく以牙ニテ言ニ及

り夕リ今ハ夜引ル後早速集

會ラナシ急也中ニ陸路ノ義ヲ

奪ソ強ニ此止陸路ノ義ヲ

不ハ本ハ世ノ与ニ義ニ面自

急しく依而速ニ辞強強ニ交

為中出と移し辞強中出と只今

兩人辞強ハんハハハハハ

談し方急しく簡令如中様ナ

後四村ヲ蒙んモ増様五ヶハハハ

何許ハハ本ヲ物成取ナシ

下言言眼赤ニ金銀ヲハハハ

自然使ハハハハハハハハハ

毎届ハ封印コテ何ハ護願ヲ

ナスカ又ハ封印ト秘ニ此電

ハハハハハハハハハハハハ

存証証強ハハハハハハハハ

リズニ君ハハハハハハハハ

其急ハハハハハハハハハハ

其急ハハハハハハハハハハ

○陸路金銀北官用方ハ陸分

中ハハハハハハハハハハハハ

金ハ銀ハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハ

トスカ又ハ討印トシ秘ニ此電

分破ハルカシカカリテ此電
存評議後此ハ才ニテ此上懲

リズニ君ルハカキリ一ツカキハ
東亞ノモ人ヲ為警ニ事ハカキ

カキテモ人ヲ為警ニ事ハカキ
○信成金銀此電用方ハ随分ス

中ノリナリ操廻ニ事ナリ君ニ準備
金ハ新ナリ於テ言地ニ事ナリ中操廻

ニ事ナリトハ信成ニ事ナリ
ハ信成ニ随分ス。信成中紀ハ

トモ秘ニテ一ノナリシカハカキ
ニテモ新ナリ於テ言地ニ事ナリ

感ニ此ナリ空ニ大ニ事ナリ
カキテモ情ニ信成ニ事ナリ

ハカキ
大申トシテ報告ナリ此ハ先ハ差

上ナリ君ニ事ナリ
ハカキテモ情ニ信成ニ事ナリ

上ノ中ナリ君ニ事ナリ
ハカキテモ情ニ信成ニ事ナリ

ハカキ
ハカキテモ情ニ信成ニ事ナリ

十月五日
近江湖上米屋
外山信成
お貞

若崎ハニ郎様

五柳下

乙号
甲号
三屬
几仕
記
骨

第...

一金

一

小計

Handwritten entries in a ledger table, including numbers and characters.

六千八百五拾三圓九錢九厘

現金有言

差引

Vertical handwritten text on the left side of the page, possibly a list or notes.

Handwritten text on a separate slip of paper, including the characters '田' and '一'.

甲号
乙号
丙号
丁号
戊号
己号
庚号
辛号
壬号
癸号

起
身
不
有

六

一

一

一

洞... 甲... 乙... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

一全... 乙号... 丙... 丁... 戊... 己... 庚... 辛... 壬... 癸...

行
沙
リ
指
當

一

一

一

一

上物言記吳中...

しり論議...

予面昔起人...

小言在...

洪州中...

此所...

任事...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

... 爲之... 草

開... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

... 爲... 草

甲号
三屬天
乙号
几仕訳
七ノ
昏

第十七國之銀行検査仕譯 上ノ摘要

金銀有高油査

一金七萬七千五百五十九圓九拾八錢六厘

十月一日即十検査前ノ一覽表金銀有言

二〇、二五、二九、三〇圓九拾九錢四厘

十月二日検査前ノ前出山ノ引金收納言

合計言万七千八百九拾二圓八拾九錢六厘 附簿を証言

内

六千八百九拾三圓九錢六厘 現金有言

差引

及、備、外、以、認、行、收、入、抵、當、之、金、少
起、業、不、得、以、事、任、其、行、起、業、不、得、以、事、任、其、行

Handwritten note on a piece of paper pasted onto the page. The text is written in cursive and includes a red seal or stamp on the left side.

千七百七拾三圓五錢五厘 不足之萬

丙

千圓

其ハを福公債証券買入ノ為メ去月(正月)廿日
名古屋、送り青ハ所ノ支店、預メ可採ノ
手形ヲ領收シ之ヲ彼方棚橋貞延ニ托シ
於テ右方債証券買入申ナリト云フ

千圓

其方を福公債証券買入ノ為メ去月廿日社負
引申宗去メ戻根、社方セシメタリト云フ

乙号
モノ

千圓 九拾四錢

其ハ一時之替時貸ノ類ニテ帳簿ニ記載
セズシテ仕掛タル口々ナリト云フ

壹圓

其ハ本社印幣誤テ他店紙幣混入
シタル事

千圓 五拾五錢

其ハ本社印札ニシテ真贋不審ノ事

五拾五錢 五厘

其ハ仕掛口不分明ノ事

不慮ノ事進出有
為、増加増減等ニ對スル
起業ノ債證券、仕掛ノ
起業ノ債証券、仕掛ノ

計 壹万千之拾三圓七角五分

準備金調査

一 三萬九千九百九拾九圓

流通紙幣高

比二割五分即十必要準備金

九千九百九拾九圓七角五分

比六分

六千五百七拾九圓九角

銀銅貨并
紙幣中

差引

二千四百三拾三圓五角五分九厘 準備不足高

乙号
毛ノ

一 三萬三千六百五拾五圓

當座并之預金及振出形

比二割五分即十必要準備金

五千九百九拾三圓七角五分

比六分

貳百四拾七圓

他店紙幣

四拾四圓

公債證書

差引

五千六百三拾三圓七角五分 準備不足高

右二口合計 九千四拾六圓三角九分 全準備不足高

有金庫ノお通金... 右ノ金庫ノ... 紙幣... 相當
為... 増カ... 減少... 抵當... 差引
起業... 債... 仕... 行... 起... 業... 債... 仕... 行...

以上

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

款項

一 岩倉行 於本年七月以資本坊如簿書ヲ大藏省へ
 呈上シ其簿向キニ留買存シ對スル者及以代幣ノ抵當
 トシテ其細仕書ヲ移稿ニ付此簿書ヲ起業及以信託書ト
 交換シ且ツ之ヲ移稿ニ付此簿書ヲ寄附シ存シ其係
 之渡邊君及上野中ノ銀行ノ深長山島簿書ノ所屬及以
 以高臨ノ店及或シ其準備人等ノ不具ニテ之ヲ於人等ニ付
 以事及以情情ノ細仕書ヲ放ルル其及以厚事及以教及以
 以本月之末大藏省ヨリ檢査員中出ル四三ノ檢査員
 其及以外及以有業ノ取入ニテ帳簿及以有人等トシ其及以
 有業ノ及以迄ニテ其及以右ノ高倉ノ及以簿及以抵當
 其及以簿及以簿及以簿及以簿及以簿及以簿及以簿及以簿
 起業及以信託書ニ付其及以竹起業及以信託書ニ付其及以

乙号ノ屬
モノ

新刊以上

明治十一年十月十日 岩士六國三銀行

支那人

上村武敏

取持役

未原ヨ吉

加藤良三

改定利息少利準備

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

吉田

歎願

當銀行營業之實況御検査トシテ
八月八日岩崎小二郎殿御出張相
成候節準備金ニ不足有之不都合
ニ付以來此度注意可致旨懇篤御
教悔ヲ蒙リ奉敬儀候就テハ又候
準備不足等有之候テハ何等申上
様ニ無之儀ニ御座候處本月三日

新刊以上

明治十一年十月十日 岩手県立銀行

支那人

上村武敏

未原ヨリ

加藤良三

改定利息少額利準備殿

歎願

當銀行營業之實況御検査トシテ
八月八日岩崎小二郎殿御出張相
成候節準備金ニ不足有之不都合
ニ付以來此度注意可致旨懇篤御
教悔ヲ蒙リ奉敬儀候就テハ又候
準備不足等有之候テハ何等申上
様ニ無之儀ニ御座候處本月三日

丙号

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄

外山脩造殿垣長堯殿御出張相成
現有金御調査之御準備金之内金
九千圓余不足相成候段御諭達ヲ
蒙リ寧以忍入候次第ニ奉存候右
ハ全ク當時名古屋彦根邊ニ低價
ニ公債証書有之候者兼リ込金壹
萬圓ハ名古屋表ニ壹千圓ハ彦根
表ニ公債買収ノ為メ差送り公債

買取候上ハ右仕拂候分丈々金
圓ハ補足行届キ候心得ヲ以テ差
送り候儀ニ付其金額仕拂以前ハ
準備金ニ見做不苦儀ト存込居候
ヨリ右様ノ不足ヲ生シ銀行條例
之明文ニ抵触候様成行候段ハ何
共申上候様モ無之忍棟之至リニ
候此上ハ私共ニ一身ニ於テハ何

様之御譴責ヲ被リ候トモ毫モ遺憾無之事ニ御座多御共若シ私共一己ノ不取計有之候為ノ鎖店又ハ兼テ奉願候増株等御間届ケ不相成候様ニテハ第十六国立銀行之栄辱ニ關係仕衆株主ニ對シ何共申譯モ無之次第ト甚夕痛心仕候間右之情状御酌量被成下出格

之御詮議ヲ以テ寛太之御沙汰被成下度奉嘆願候就テハ私共儀ハ連ニ頭取支配人ノ任ヲ退キ他ノ代負ヲ撰擧候様不計且準備金其外營業上ニ付テ別段之換查役相立向後萬一ニモ此般ノ如キ不都合不相生候様申送りモ可仕候間何率微衷御諒察被成下前陳寛優

之御處置有之候様備ニ奉懇願候
以上

明治十一年十月廿九日

此年第十六國之銀行

支配人 上杉武次郎

渡邊甚吉

大藏卿大隈重信殿

録

行掛

右第十六國之銀行頭取支配人出願
之趣ハ特多ク之旨詮議スル宜候存案
ニ致仕度因ニ與印也

明治十一年十月三十日

岐阜縣令堀利準

堀利準印

